

4月18日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。国語・算数の2教科のテストと同時に、学習への意識や基本的な生活習慣、規範意識を問う調査も実施されました。こうした調査の結果をふまえ、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語・算数の2教科の調査が行われました。どちらの教科においても、全国の平均正答率を大きく上回る結果でした。問題ごとに見ても、全国の平均正答率を下回るものではなく、非常によくできていました。日々の取組の積み重ねや学習指導の成果であると考えられています。

国語科より

国語の結果については、「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」のどの観点も全国平均を約10%以上上回っていました。特に「話す・聞く」能力は、全国平均を15%以上上回り、良好な結果でした。問題形式別でも「記述式」の結果が全国平均を10%以上上回っていました。

職人さんへのインタビューを題材にした問題では、【話し手の意図を捉えながら聞き、的確な質問をしたり自分の考えをまとめたりする設問】の正答率が非常に高く、話す聞く能力の高さを示していました。また、食べ物の保存についてまとめたノートを読んで答える問題では、【文章の内容を的確に押さえ、考えを明確にしながら読む設問】の正答率が高く、読む能力が高いことも示されていました。

問題形式別に見ると、【漢字を正しく書き表す短答】の正答率や【自分の考えを明確にして書く記述式】の正答率が、全国平均に比べて非常に高く、基礎基本の力と共に活用する力も十分に身に付いていることが分かりました。今後も、こうした能力を学習の中で積み重ねていくことが大切であると思います。

算数科より

算数の結果についても、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」のどの観点も全国平均を約10%以上上回っていました。特に「数学的な考え方」については全国平均を約15%上回り、良好な結果でした。問題形式別では、「記述式」の結果が全国平均を約20%上回っていました。

【示された図形の面積の求め方を解釈して、その求め方を説明する設問】や【資料の特徴や傾向を関連付けて値の意味を理解し、理由を述べる設問】の正答率は、全国平均を大きく上回っていました。記述して答える設問の正答率も高く、数学的な考え方を利用する能力が定着していることが示されていました。

技能や知識・理解の観点についての正答率も高く、【計算の仕方を解釈し、かける数やわる数を選んで計算しやすい式にして計算する設問】や【加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする設問】【単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述して判断する設問】など、全国平均と比べて10%以上上回っており、どの能力も定着が伺えます。身に付けている能力をさらに伸ばしていくためにも、学習の中で十分に能力を利用する場面を設けるようにしていくことが、これからも必要であると思います。

児童質問紙調査から

Q. 読書は好きですか。

上記の質問による結果は、51%の児童が「好き」、30%の児童が「どちらかと言えば好き」と答えていました。読書に親しむ機会をこれからも増やしていくことで、学力はもちろんですが、社会性を養ったり心の成長につなげたりしてくれればと思います。そのためにも、授業で本の活用やブックワールドの利用も充実させていきたいです。

Q. 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

上記の質問による結果は、「している」と答えた児童が26%、「どちらかと言えばしている」と答えた児童が39%でした。家での学習も学力を定着させる意味では非常に大切です。自分で計画を立てて学習に取り組む習慣を確実に身に付けたり、家での学習の機会をしっかりと設定したりすることを、これから続けてほしいと思います。

全体を通した本校の成果と課題

本校では学校教育目標を「学びの広がり、深まりとつながりのある学校」とし、めざす子ども像を「他者と協働し、学び合う子の育成」として、取組を進めています。

学力向上の取組に関しては下京中学校ブロック5小学校では学力情報を共有して、日々の指導方法の改善や個に合った指導の改善に努めています。本校では研究主題を「お互いの考えや気持ちを伝え合う活動を通して、主体的にコミュニケーションを図ろうとする子の育成」とし、言語活動を充実させることを通して、主題に迫る児童の育成を目指しています。そのために、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にする」ことや「言語活動を理解する活動の充実」「指導者と児童のやり取りの充実」「児童同士のやり取りの充実」などを研究項目に挙げ、取組を進めています。また、4年前から「のびのびトレーニングタイム」を設定し、年間を通して論理的に話し合う活動や書きまとめる表現力の育成を目指した取組も継続しています。

今回の調査で大変良い結果を得ることができたことと、今後の本校での取組とをより関連付けて進めていけるようにしていきたいと思います。

また、児童質問紙で、「自分にはよいところがあると思いますか」「人に役に立つ人間になりたいと思いますか」といった質問に対して全国平均を上回る割合の児童が「ある」と答えている点はよかったと思っています。

しかし、「学校のきまりを守っていますか」などの規範意識を問う質問では、さらに向上を目指していかなければならないと考えています。指導すべきことはしっかりと指導した上で、話し合い活動の話題に取り上げるなどし、きまりの必要性を自分で考え、友だちと交流しながら考えを深めていけるような機会を増やしていくことが必要だと思います。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は学校・家庭の地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤になります。今回の本校の結果を見ると、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもたちに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力お願いいたします。